

プログラム



お知らせ

- ◇ 学会当日、参加費 1,000 円（現金のみ対応）を徴収いたします。
- ◇ 一般演題の発表はすべて PC プレゼンテーションです。
- ◇ 1 演題は口演 7 分、質疑応答 2 分です。
- ◇ 学会終了後 1 週間以内に、400 字以内の西日本皮膚科掲載用の抄録をご提出下さい。提出がない場合、プログラム掲載の抄録を使わせていただきます。

提出先：

〒683-8504 米子市西町 36-1 鳥取大学医学部皮膚科学分野内

日本皮膚科学会第 144 回山陰地方会

事務局 担当：足立 孝司

電話 0859-38-6597 FAX 0859-38-6599

E-mail : hifujimu@ml.med.tottori-u.ac.jp

◇ 単位について

機構認定専門医制度による単位認定（新制度）

下記の項目で聴講単位が認められています。

8 月 30 日（日）講演時間 9:30-11:30 一般演題（認定単位数 1 単位）

開始時間 30 分前から開始後 15 分以内に受付手続きをしてください。

開始後 15 分を過ぎた場合、聴講単位が認められません。

■日本皮膚科学会皮膚科専門医の方

現在、皮膚科専門医の大半の方は移行中も含め機構制度での単位取得が必要です。

【単位取得方法】

聴講単位が認められているセッションの会場前で受付をいたします。受付時間外の登録は一切受け付けませんのでご注意ください。

・機構専門医制度による後実績単位を取得する方は（A）会員証をご持参、（B）

皮膚科専門医総合システムにログイン（QRコード受付）したうえ、会場前で開

始時間 30 分前から開始後 15 分以内に受付手続きをしてください。

（A）会員証の場合：会員証をカードリーダーにかざして受付

（B）QRコードの場合：受付でQRコードを携帯のカメラ画面で読み込み受付

<手順>

1.日本皮膚科学会ホームページより皮膚科専門医総合システムにログインする

皮膚科専門医総合システム URL : <https://uketsuken1.dermatol.or.jp/>

皮膚科専門医総合システムログイン QR コード



2. ID およびパスワードを入力する.

* ID・パスワード：日本皮膚科学会会員専用ページと同様

3. 会場入口にてパソコン画面に表示されている QR コードを携帯のカメラ画面で読み取る.

4. 携帯画面で,講習会受付が完了した表示であることを確認する.

※受付の登録記録は受付システム「参加一覧」より確認が可能です。

一般演題 9:30～11:30

座長：足立孝司、谷 直実

1. 令和7年の鳥取大学皮膚科における外来の統計

○ 谷 直実（鳥取大学皮膚科）

鳥取大学皮膚科の令和7年（1月から12月）の外来の統計を報告する。

2. 令和7年の鳥取大学皮膚科における入院および手術の統計

○ 森 裕美（鳥取大学皮膚科）

鳥取大学皮膚科の令和7年（1月から12月）の入院および手術の統計を報告する。

3. 放射線治療単独で良好な経過を得たメルケル細胞癌の2例

○ 岡田 優、石原啓太郎（鳥取県立中央病院皮膚科）、後藤寛之（大阪公立大学皮膚科）

放射線療法単独で局所コントロールができたメルケル細胞癌の2症例を経験した。
考察を含めて報告する。

4. 繰り返す肺炎を契機に判明した IgG3 欠損症患者に多剤による薬疹が疑われた1例

○ 和久本圭子（松江赤十字病院皮膚科）、濱口 愛（島根大学呼吸器内科）

30歳女性、肺炎のため複数回入院。抗生剤治療の度に全身に紅斑が出現し対応に苦慮した。のちに IgG3 欠損症が判明した。

5. 腰背部の線状皮膚萎縮から混合性結合組織病（MCTD）の診断に至った1例

○ 三原 崇、千貫祐子（島根大学皮膚科）、舛金聖也（同小児科）、福代新治（どれみクリニック福代皮膚科） 山崎 修（島根大学皮膚科）

15歳女性。腰背部に線状皮膚萎縮が出現し、その後四肢にも同様の皮疹が出現した。精査の結果、混合性結合組織病の診断に至った。

6. 平滑筋肉腫と鑑別を要した前額部 Cellular dermatofibroma の1例

- 上田楓子、石原啓太郎、岡田 優、國岡順子（鳥取県立中央病院皮膚科）、後藤寛之（大阪公立大学皮膚科）

30代女性。初診3ヶ月前から前額部正中に10mm大の褐色結節を認めた。皮膚生検で平滑筋肉腫の疑いがあり全切除を行った。

7. ウパダシチニブ治療中のアトピー性皮膚炎に合併した広範囲の陰部尖圭コンジローマ

- 浅沼 遥、福代通人、上野彩夏、小池貴之、山崎 修（島根大学皮膚科）、太田征孝（おおた皮膚科クリニック）

40歳男性。潰瘍性大腸炎とADでウパダシチニブ内服中にコンジローマが拡大した。イミキモドは奏効せず、減量術を行った。

8. 単純ヘルペスウイルスによる難治性眼瞼炎の1例

- 池田彩乃、木村良子、吉田雄一（鳥取大学皮膚科）

14歳男性。アトピー性皮膚炎を背景に、通常治療で改善せず病変が徐々に拡大した症例を経験した。

9. 膀胱癌確定診断時に頭頂部皮膚転移を認めた1例

- 宮本達志（鳥取県立厚生病院皮膚科）

多発肝転移の精査で膀胱癌と診断され、同時期の頭頂部硬結皮膚潰瘍の精査で皮膚転移の所見を認めた1例について報告する。

10. ペンブロリズマブ投与中に生じた肥大型扁平苔癬の1例

- 國岡順子、石原啓太郎、上田楓子、岡田 優（鳥取県立中央病院皮膚科）、後藤寛之（大阪公立大学皮膚科）

57歳男性。腎癌に対してペンブロリズマブ投与中、躯幹四肢に痂皮を伴う紅斑が出現し、肥大型扁平苔癬と診断した。

特別講演 (11:30～12:00)

座長：山田七子

演題

「タンパク質の構造機能解析と
分子動力学シミュレーション」

演者

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座 准教授

藤原 伸一 先生

ランチョンセミナー (12:00～13:00)

共催 鳥居薬品株式会社

座長：吉田雄一

演題

「アトピー性皮膚炎の外用療法再考」

演者 (WEB 登壇)

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科

皮膚科学分野 教授

沖山 奈緒子 先生